

かのやうに思つて萬事に盡力されたため、此會を滞りなく開くことが出来た、吾々は爰に謹んで諸君に感謝する。

▼會場に就ては、五月頃より種々交渉してはあつたが、確定したのは開會の前日である。此件に就ては、奈良振美會の主任たる島津康雄氏の勞を謝せざるを得ぬ、猶ほ奈良縣師範學校長龜井氏は、吾々の事業に同情厚く、曾て一面識もない吾々に對して『自分の學校と思つて自由に使用せよ』とさへ言はれた、同校圖書科の久保田氏、美術院の新納氏、在滋賀縣中村氏大阪女子師範學校長大村氏等の此會に對する親切同情も謹んで爰に謝す。

▼寄宿旅舎の待遇は、昨年の大阪や澁の比ではない、孰れも親切を盡してくれた、特に三山亭の如きは、食事其他にも注意して、會員を一家族の如くに思ひ、利益を離れて遇してくれた、隨て會員は銘々何等の不足を言ふものなく、極めて満足して居たやうである。

▼三山亭に於ける會員は、日野、竹下諸氏が主として親和を圖り、對山樓にては富田、西松兩氏、升屋にては西、飯田諸君が盡力されて、極めて隔意なく終り迄圓滿に暮した、そして會員中、酒氣を帯びてゐたるものは一人もなく、また夜分遅く迄外出して居るやうなものは一人もなかつたとの事である。

▲會員中、後藤百次氏は神經病のため、菅井君は腸カクタの爲め、西君は脚氣のために中途より歸郷されたのは御氣の毒であつた。

▼以上は第三回講習會の概況である。開催地たる奈良市有志の同情、會員の眞面目にして且熱心なる勉強、委員諸氏の献身的努力、夫等が此會をして満足なる結果を得せしめた理由である、吾々は重て茲に深厚なる謝意をこれ等の諸君に致すのである。

三亭笑語

蝸 牛 生

■奈良の地暑熱甚し。寄宿舎に歸るや、一同熱い／＼を叫ぶ。某君一策を按じて直に罰金帳を作り、一度云う毎に一錢の罰金を課す、茲に於て、暖い、涼しくない等の語流行頻りなり。

■關東の某君、誰は罰金點が増したから振つてる。あのスタイルは振つてる、と振つてるを振廻す事夥し。罰金會の夜、お松さん銀世界とカステイラを持來るや、忽振つてるの大安賣を始む。お松さん何と思ひてか、『ちつともふるてやしまへんわ』

■某君常にうろつき廻つて到る處に冷評酷罵す。依而罵倒博士の尊號を授けらる。大下先生又皮肉を以て名あり。一日竹下君畫を修正せるを折柄通りし先生評して曰く、其雲は倒にするに非常によい山に見えますよ、空に深味がないから雲より空の方が手前にある様に見えます。罵倒博士やを來つて何か言ひた相なり。先生笑つて曰く、罵倒比べをしやうぢやないか、博士曰く、繪の脇に説明を付けたらどうです。先生答へて曰く。雲の奥に空ありとでもして置くかれ。

■罰金茶話會を開くに當り、徴收額を檢するに某は一點某は二點某は十三點平均すれば一人四錢餘、依て貧乏くじを引きて補缺したる結果、某は僅に一錢某は十九錢五厘を出すと云ふ不均を來しぬ。菓子出るに及んで高點者は先取を主張し、一錢君は社會主義を振廻して天下平等を主張す。やがて會始まるや、一人がもう熱いを言つてもよいと言へば一同忽現金主義を奉じて口々に熱い／＼を連發す。

■横濱の某性頗る快活、聲甚だ甲高、一笑すればよく一町四面に轟き渡る、送別會の席上、滑稽動物園に獅子を見ん事を望む園主先づ説明して曰く、え、此獅子は丈が高くて聲も高い。さあ御覽なさいと。某君覗いて見るや、苦笑一番、ウワツハーと吼ゆ。一座の百獸悉く之に和してウワハハハ……。

■短しと雖も二週日、朝は五時前に起き、多くは食前に一枚のスケッチを得、朝の講話すめば直に三脚を擔いで出て、頭上に太陽の耀々たるを忘れて無心に筆を運ぶ。午後は多く二時の聲に飛出し、蟬の聲滋々たる炎熱の場裡に、人は正に午睡の夢まどかなるべきを吾一團は已に塵寰を脱して直に自然と同化する、其勇氣や忍耐や、否其熱誠や、恐らくは他に又之を見る事能はじ。

■一夜丸山先生、巴里に於て自ら演ぜし滑稽談を話さる。珍妙洒脱、談興に入つては先生自ら體を前後に揺すつて大に談じ大に笑ふ。聞く者吾を忘れて、和氣自ら一場に滿つるを覺ゆ。惜しや吾に、之を筆して讀者に興を頒つ才なし。

■二十四貫君常に奈良の方言を用ゐて女中を笑はす事一再ならず。食時に至りて女中故らに他の方より飯を盛り始む。二十四貫君もどかしくて堪らず、茶碗をたいて曰く、『はよう飯を呉れへんか』

日本水彩畫會新會友

- | | |
|------------------------|-----------|
| 山口縣山口町大市、八井秀太郎方 | 中土居 權太郎 |
| 鳥取縣西伯郡五千石村諏訪村 | 佃 永 吉 |
| 大阪市東區東高津南ノ町一二八ノ六武田方 | 伊 藤 廣 治 |
| 京都市四條通富小路角、明治生命保險株式會社内 | 西田 定 次 郎 |
| 神奈川縣都筑郡中川村茅ヶ崎 | 岸 賴 正 |
| 和歌山縣有田郡廣村狛忠雄方 | 長 谷 川 年 行 |

◎寫眞、殆ど中央、手を組んでゐる洋服姿は丸山講師、少し左の洋服は松原講師、羽織袴の方は新納先生、ズット前方石階に腰かけてゐる洋装は天下講師。